

2020年度（第45回）学術研究振興資金 学術研究報告

学 校 名	京 都 外 国 語 大 学	研究所名等	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所
研 究 課 題	中米の古代パンアメリカンハイウェイがつなぐ 南北交流の研究 —交流の道・足・物を考古学から読み解き 地域社会へ還元する—		研究分野 文 学
キ ー ワ ー ド	①中米太平洋側地域 ②古代パンアメリカンハイウェイ ③新大陸南北古代文明の交流 ④土器編年 ⑤金とヒスイ ⑥岩刻画 ⑦考古学と博物館 ⑧フィールドミュージアム		

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
南 博 史	国際貢献学部 京都外国語大学ラテンアメリカ 研究所	教授 研究員	研究代表者、研究統括、考古学調査・分析、フィールド ミュージアム構想の提案・実施

○研究分担者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
市 川 彰	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所 名古屋大学人類文化遺産テクスト学 研究センター	客員研究員 研究員	考古学資料分析(とくにメソアメリカ太平洋側土器との比 較研究)、生業研究(製塩など)
嘉 幡 茂	国際言語平和研究所	嘱託研究員	研究副代表者、考古学調査・資料分析(小原豊雲コレク ション土器)、金属製品の比較研究
柴 田 潮 音	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所 エルサルバドル文化省 文化自然遺産局考古課	客員研究員 顧問	考古学調査・資料分析(とくに石彫、岩刻画などの比較 研究)
村 野 正 景	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所 京都文化博物館学芸課	客員研究員 学芸員	考古学資料分析(とくにニカラグア中央部土器との比較 研究)、土器の移動、製作技法の研究 博物館活動の実施
ミリアム メンデス	La Dirección de Arqueología, Ministerio de Cultura	Apoyo Técnico	タマニケ地方サンインドロ地区考古学調査 コミュニティ・ミュージアム活動の実施
フランシスコ コラレス	Arqueología en el Museo Nacional de Costa Rica	Antropólogo	オサ半島地方カンタレロ遺跡考古学調査 ガジャルド村コミュニティ・ミュージアム活動の実施

# 中米の古代パンアメリカンハイウェイがつなぐ南北交流の研究 — 交流の道・足・物を考古学から読み解き地域社会へ還元する —

## 1. 研究の目的

(1) この研究は、従来中間地域とされてきた中米地域の太平洋側が、「古代パンアメリカンハイウェイ」（古代メソアメリカ文明と古代アンデス文明を結ぶ道）であったという仮説を「道→何のために＝地域事情」、「足→どのように＝方法」、「物→何を＝運ばれるもの」の考古学研究から実証する。

①「道→何のために＝目的」：エルサルバドルタマニケ地方サンイシドロ地区、およびチャルチュアパ地方カサブランカ遺跡、コスタリカのオサ半島カンタレロ遺跡において、現地研究機関の考古学調査に協働し、当該遺跡の各地域における歴史的文化的位置づけを明らかにし、土器の移動を中心に研究を試みる。エルサルバドルは古代メソアメリカ地域に直接つながる地域として土器の編年研究も重要となる。また、岩刻画の位置と分布情報を収集する。

②「足→どのように＝方法」：ヒスイと金製品は両文明の威信財として運ばれており、コスタリカ国立博物館、ヒスイ博物館と協働してその再現に取り組む。とくにカンタレロ遺跡およびその周辺は砂金の産出地であり、考古学調査によって関連資料の収集が可能となる。

③「物→何を＝運ばれるもの」：土器、土偶、金、ヒスイ、石彫を対象とする。とくに小原コレクションのコスタリカおよびエクアドルの土器と土偶を用いて、他地域との比較研究を行う。当該地域は古代アンデス文明に繋がる地域として重要である。

(2) コミュニティ住民を主体とする文化資産を活用した地域活性化活動（コミュニティ・ミュージアム活動と定義）に参画し、研究の成果を還元した地域の持続可能な開発に貢献するフィールドミュージアムマネジメント活動を実施する。

①コスタリカ・オサ半島におけるフィールドミュージアム活動

②エルサルバドル・太平洋側におけるフィールドミュージアム活動

## 2. 研究の計画

(1) 国内調査（国際文化資料館）

①小原コレクション遺物調査：研究代表者、研究分担者（嘉幡茂）

活動：コスタリカ、エクアドルの考古資料の確認、遺物カード、データベースの作成

②整理作業：夏期調査の整理および2020年次報告準備国内調査

活動：学会発表 研究代表者、研究分担者（嘉幡）、研究協力者

(2) 海外調査Ⅰ期【2020年8-9月】

①エルサルバドル：2週間程度／代表者、研究分担者（ミリアム・メンデス）、研究協力者  
調査地：タマニケ地方サンイシドロ地区

活動：2019年2月に実施した地形図をもとに、遺跡情報を加えた遺跡分布図を作成。地区住民の協力の元、準備をはじめた遺跡ガイドンスルールの整備をすすめる。

②エルサルバドル：1週間程度／研究分担者（柴田潮音、村野正景、市川彰）

調査地：チャルチュアパ地区カサブランカ遺跡公園

活動：出土遺物の再検討、遺物カード、データベースの作成、遺跡公園博物館を利用したコミュニティとの交流活動

③コスタリカ：1週間程度／代表者、研究分担者（フランシスコ・コラレス、嘉幡）、研究協力者

調査地：オサ半島カンタレロ遺跡

活動：遺跡の精密測量、表面踏査を行い次期の試掘調査に向けた準備を行う。ガジャルド村にて報告会およびワークショップ

(3) 海外調査Ⅱ期【2021年2-3月】

①エルサルバドル：1週間程度／代表者、研究分担者（柴田、村野、市川）、研究協力者

調査地：チャルチュアパ地区カサブランカ遺跡公園

活動：出土遺物の再検討、遺物カード、データベースの作成、コミュニティ交流活動

②ニカラグア：1週間程度／代表者、研究分担者（嘉幡）、研究協力者

調査地：ニカラグア国立博物館

活動：ニカラグア国立博物館から協力願いのあった収蔵品の登録作業に協働し、必要とする資料の遺物カード、データベースを作成

③ コスタリカ：2週間程度／代表者、研究分担者（コラレス）、研究協力者

調査地：オサ半島カンタレロ遺跡

活動：試掘を行う。土器編年資料などの回収。ガジャルド村にて報告会・ワークショップ

### 3. 研究の成果

(1) 「物→何を＝運ばれるもの」：土器、土偶、金、ヒスイ、石彫を対象とする。とくに小原コレクションのコスタリカおよびエクアドルの土器と土偶を用いて、他地域との比較研究を行う。

① 小原コレクション「コスタリカおよびエクアドルの土器と土偶」の研究

新型コロナウイルス感染拡大によって、小原コレクションを収蔵している国際文化資料館での活動が制限されたが、年度末までにコスタリカ、エクアドルの土器と土偶109点を抽出できた。

② 資料の記録化作業

コスタリカ、エクアドルの考古資料の確認作業と並行し、順次資料の記録作業を開始した。

(2) 「足→どのように＝方法」および「道→何のため＝目的」の研究

① 新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた海外調査は実施できなかった。海外研究協力者も自国の行動制限により、調査を実施できなかった。

② 同じく、ニカラグア国立博物館で予定していた収蔵品の登録作業にかかる遺物研究も進めることができなかった。

③ この中、2020年3月に実施したニカラグアのカリブ海側における岩刻画分布調査による資料の整理・分析を実施した。その成果および先住民集落における博物館活動の可能性についてまとめた。

④ 一方、カリブ海側ウルワにおいて歴史地理学からフィールドワークを実施している横浜国立大学池口明子氏より、南北両自治区の境界を流れるリオグランデ・マタガルパ川の中・下流域に分布する岩刻画の情報の提供を受けた。

(3) フィールドミュージアム研究

① ニカラグアのカリブ海側およびエルサルバドル太平洋側、コスタリカのオサ半島での考古学と博物館を仲介者とした実践的地域研究については、海外調査が実施できず、現地コミュニティとの活動は停止している状況である。

② ニカラグアのキラグア山西麓ティエラブランカを中心としたフィールドミュージアム活動についても同様である。考古学調査を含め現地調査再開に向けて、マティグアス市内の拠点を中心として、ニカラグア国立自治大学出身の考古学者の協力のもと現地情報の収集につとめている。

### 4. 研究の反省・考察

(1) 小原コレクションのコスタリカ、エクアドル考古資料の研究

① 今回の調査によって、小原コレクション約2000点中109点の土偶・土器を確認することができた。全点の写真撮影および採寸は終了した。京都外国語大学国際文化資料館収蔵資料であるが、やはり新型コロナウイルス感染拡大により作業が制限されたため、予定していたデータベース作成は未了である。2021年度に継続する。

② 一方、コスタリカなど関連諸国の博物館などに収蔵されている当該資料との比較研究は実施できなかった。

(2) ニカラグア岩刻画の研究

① 今年度現地調査は実施できなかったが、2021年3月に実施した現地調査で得たカリブ海北自治区シウナ周辺の岩刻画の文様と立地からの分析を実施した。その結果、その在り方に2つのパターンがあることがわかった。

② これをもとにした南自治区のソンプレロネグロ遺跡での調査は実施できなかった。

③ 岩刻画の情報の提供を受けたリオグランデ・マタガルパ川は、継続して調査を実施しているマタガルパ県マティグアス郡ラスベガス遺跡の所在するキラグア山西麓に水源の一つ

をもつ。ラスベガス遺跡出土遺物の研究から、カリブ海側との交流の可能性について指摘してきた。提供を受けた岩刻画には位置データが記録されており、2021年はこの岩刻画の分析を進めることで、カリブ海側と内陸部の交流の解明を目指す。

(3) フィールドミュージアム研究

① ニカラグアカリブ海自治区大学、エルサルバドル文化省文化自然遺産局、コスタリカ国立博物館それぞれの研究協力者を通して、現地の様子などを確認しているが、現地もまた行動が制限されているため十分なやりとりはできていない。Withコロナを考えると、今後は現地の生活環境、経済状態などを考慮したオンラインでの調査、交流方法を整えていく必要がある。

## 5. 研究発表

(1) 学会誌等

① 深谷岬、南博史、嘉幡茂、川嶋まどか「ニカラグアのカリブ海側における岩刻画の考古学調査およびコミュニティ・ミュージアム活動に向けた研究」『京都外国語大学ラテンアメリカ研究所紀要』20号、191-212頁、京都外国語大学ラテンアメリカ研究所、2020年12月

(2) 口頭発表

① 南博史・深谷岬『ニカラグアカリブ海地域における岩刻画調査』古代アメリカ学会第25回研究大会(オンライン)、2020年12月5日

(3) 出版物

① 大越翼編「先スペイン期アメリカ地中海の交流に関する考古学的研究」『京都外国語大学ラテンアメリカ研究所の現在』デジタル版、5-19頁、京都外国語大学ラテンアメリカ研究所、2021年3月